

## 令和元年度 英語学習実施状況について

金沢市立長坂台小学校

## ①小学6年生 英語学習意識調査（令和元年度12月実施）（%）

		そう思う	どちらかと言えば そう思う	どちらかと言えば そう思わない	そう思わない	無回答
問1	英語の勉強が好きだ。	29.7	44.6	17.6	8.1	0.0
問2	英語の勉強は大切だ。	58.1	31.1	4.1	6.8	0.0
問3	ショートタイムの時間は英語の勉強に役立っている。	37.8	48.6	9.5	4.1	0.0
問4	英語の授業がわかる。	48.6	39.2	9.5	2.7	0.0
問5	英語で先生や友達に質問することができる。	32.4	40.5	13.5	12.2	1.4
問6	先生や友達の英語の質問に英語で答えることができる。	25.7	43.2	18.9	10.8	1.4
問7	アルファベットの大文字が書ける。	83.8	12.2	1.4	1.4	1.4
問8	アルファベットの小文字が書ける。	82.4	10.8	4.1	1.4	1.4
問9	副読本「Sounds Good Jump」の文を見て、書き写すことができる。	68.9	21.6	4.1	4.1	1.4
問10	副読本の本文を声に出して読むことができる。	31.1	32.4	27.0	8.1	1.4

## ②来年度に向けての指導改善の具体策（令和元年度2月実施「英語教育に関する報告書」より）

- ・英語が苦手な児童の発話が少ないことから、少数で発話しやすい場を設け、個に応じた指導を図り自信をもってコミュニケーションできるよう配慮する。
- ・朝学習を学校の共通実践として充実させる。そのために既習事項の確実な定着はどうか、予習事項の理解がひとり一人できているかを確かめ進める。

## ③学校関係者評価

・「英語の勉強は大切だ」と思っている児童の割合は高いが、「英語の勉強が好きだ」と肯定的に答えた児童の割合は、やや低い。児童は英語は大切である。と認識しているが、「好きである」までは至っていない。今後、児童の意欲を引き出し、興味関心が持てるような授業の工夫が必要である。

・「英語で先生や友だちに質問することができる。」や「先生や友だちの英語の質問に英語で答えることができる。」と肯定的に答えた児童の割合は、やや低い結果であった。既習を活かし進んで表現したり、英語でコミュニケーションをとることを苦手とする傾向にあるようだ。今後は、ひとり一人が自信を持ち発話できるよう、ショートタイムで確実に前時の復習や次時で学習することの予習を行い、たくさんの児童と関わりを持ち発話できるよう、場の工夫を行う必要がある。

・「副読本の本文を声に出して読むことができる。」を肯定的に答えた児童の割合は、低い結果であった。また、「アルファベットの大文字、小文字が書ける。」の設問に対し、肯定的に答えた児童の割合は、かなり高い結果であった。そのことから、書くことと読むこととのつながりが持っていない実態があるようだ、書いたことを繰り返し声に出し、発話させ全ての児童の声が1時間の授業の中で聞けるよう、TTの役割を明確にし、個別指導の充実を図っていただきたい。